

平成23年行政事業レビューシート (外務省)

事業名	生物多様性条約拠出金(義務的拠出金)		担当部局庁	国際協力局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成5年度		担当課室	地球環境課		課長 杉中 淳		
会計区分	一般会計		施策名	VII-3 国際機関を通じた地球規模の諸問題に係る国際貢献				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第3		関係する計画、通知等	生物多様性条約第20条1項及び第2回締約国会議決定				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	生物多様性条約は、生物多様性の保全、その構成要素の持続可能な利用及び遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分を目的とする条約で、本案件は同条約の目的を推進するため条約事務局を支援することを目的とする。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	生物多様性条約は、1992年5月にナイロビで採択され、1993年12月に発効(我が国は1993年5月に締結)。条約事務局は、各国からの拠出金を通じ、主に以下の活動を実施する。(1)締約国会議の準備、(2)条約に基づく報告書作成、(3)他の関係国際機関との協力、(4)締約国会議が決定する他の任務の遂行、(5)補助機関活動に関する事務、(6)クリアリングハウスメカニズムに関する事務、(7)カルタヘナ議定書により課された任務の遂行。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input checked="" type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求		
		当初予算	212	238	193	151	159	
		補正予算	-	-	-	-		
		繰越し等	-	-	-	-		
	計	212	238	193	151	159		
	執行額	212	238	193				
執行率(%)	100%	100%	100%					
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値(年度)	
	締約国会議及び科学技術助言機関は隔年で相互に開催され、各々決定及び勧告を作成。		成果実績	第9回締約国会議にて作成された決定数---36	第14回科学技術助言機関会合作成の勧告数---17	第10回締約国会議にて作成された決定数---47		
			達成度	%				
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込	
	事務局が開催した会議数		回	67	事務局活動報告は3年前(2008年)のものが最新版。	事務局活動報告は3年前(2008年)のものが最新版。	-	
	作成した会議文書等のページ数		ページ	6,540				
	主要な会期間会合への出席者数		人	7,448			()	
単位当たりコスト	拠出金は複数の国により負担されているため、単位当たりのコスト算出は不可。		算出根拠					
平成23年度 (単位:千円) 予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	生物多様性条約拠出金	151,234	158,555					
	計	151,234	158,555					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	我が国は平成22年10月、名古屋市において、愛知県、名古屋市、経済団体等からなるCOP10支援実行委員会の協力を得ながら、生物多様性条約事務局とともに準備をすすめ、第10回締約国会議(COP10)を主催した。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	会議開催事業の入札には競争入札を実施。審査委員会を設け、公平性保持を期した。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	-	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	会議には締約国179カ国、国際機関、先住民代表、市民団体等13,000人以上が参加。過去最大の約350のサイドイベントが、また隣接会場では「生物多様性交流フェア」が開催され、11万8千人を超える人で賑わった。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	我が国におけるCOP10の開催、同会議における新戦略計画・愛知目標及び名古屋議定書の採択は、条約実施についての今後の道筋を形作るものであり右は締約各国からの期待に応えるものであったため、時宜を得たものであった。		
予算監視・効率化チームの所見			
日本の分担額・拠出額に応じて要求額を見直し			
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
日本の分担額・拠出額に応じて要求額を見直し			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			